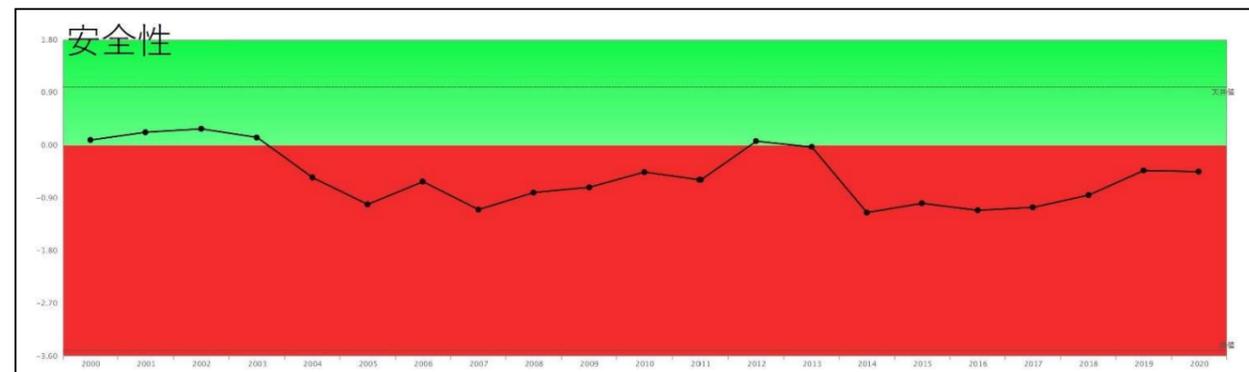
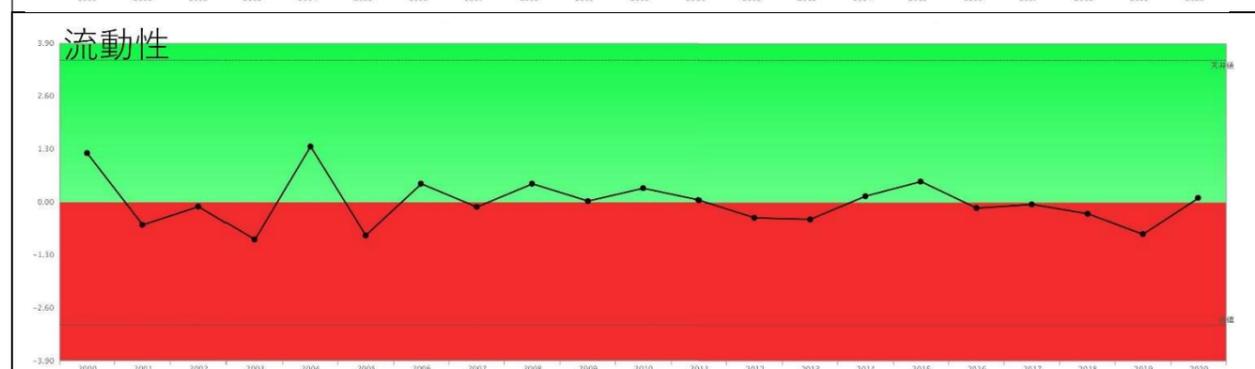
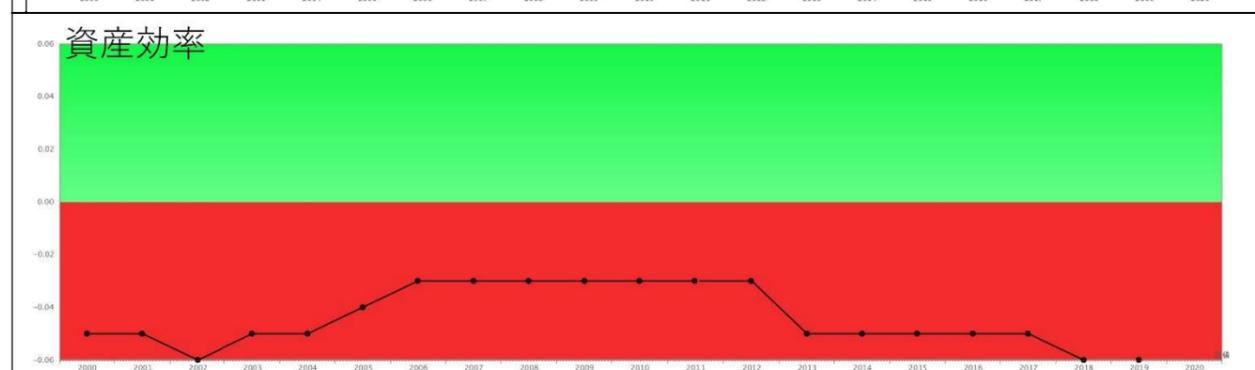
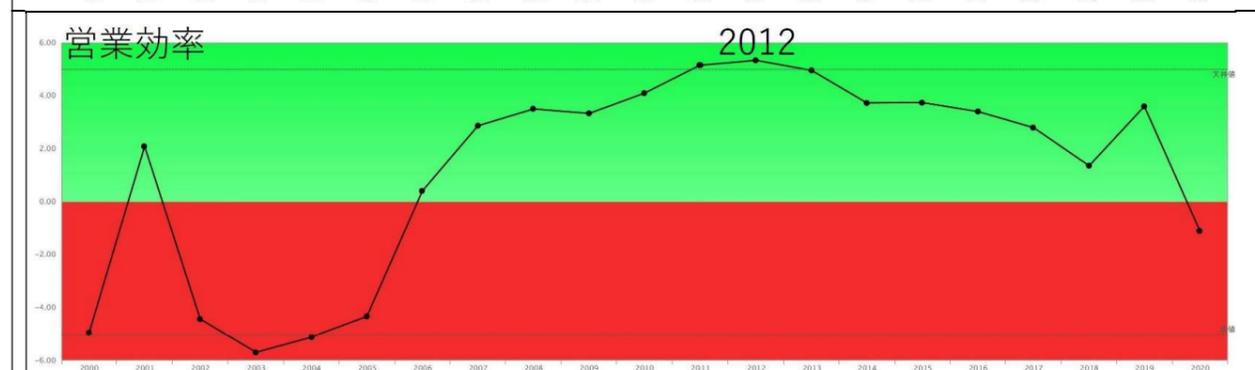
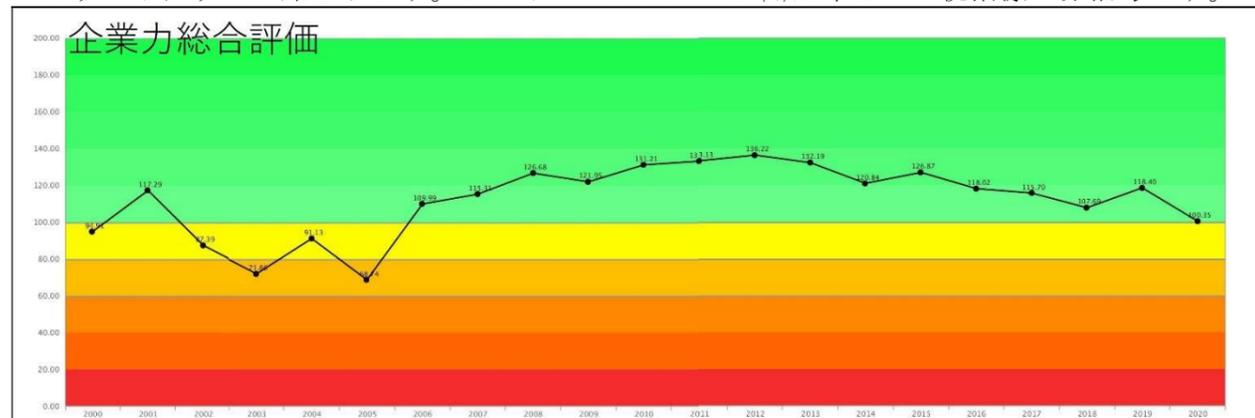


コロナ禍という厳しい環境の中、経営に潜む弱点から綻びが生じます。優秀な経営者ほど、自社のあら探しに余念がなく、いつも自社を最高の状況にもっていこうと努力します。1兆3646億円の営業損失を出したソフトバンクグループ株式会社を分析しました。

2000年～2020年3月期までの21年間を分析しました。6親指標の内4つが赤信号に入ると、破綻へのカウントダウンが始まります。ソフトバンクグループ(株)は今4つの親指標が赤信号です。



21年を俯瞰してみれば、ソフトバンクグループ(株)は、財務体質(流動性・安全性)が芳しくなく、資産効率は常に赤信号領域。生産効率(非表示)はよいものの、営業効率は2012年を頂点に悪化の一途を辿っていることが分かります。

21年間悪化を放置された資産効率がソフトバンクグループ(株)に潜む弱点です。その弱点の会計的な性質は、未来の費用・損失の貯蔵庫の獲得、もっと過激な表現をすれば、「暴発が約束された火薬庫の造成」です。同じ資産効率が悪くても、安全性・流動性がすこぶる良い会社は例外で、危機に対して安全装置となり、まるで天国と地獄のような指標と言えます。

資産効率とは資産を効率的に使っているかを売上高で測る指標です。売上高<<<資産、売上高より遥かに大きな資産を保有しています。1兆9313億円の資産が一気に損失となり、貸借対照表の資産から損益計算書に移動してきたのがソフトバンク・ビジョン・ファンドからの営業損失です。

【連結損益計算書】

		(単位:百万円)	
	注記	2019年3月31日に終了した1年間	2020年3月31日に終了した1年間
継続事業(注1)			
売上高	38	6,093,548	6,185,093
売上原価	39	△3,567,185	△3,485,042
売上総利益		2,526,363	2,700,051
販売費及び一般管理費	39	△1,866,315	△2,024,167
子会社の支配喪失に伴う利益	40	176,261	11,879
その他の営業損益	41	△19,314	△121,051
営業利益(ソフトバンク・ビジョン・ファンド等SBIAの運営するファンドからの営業利益を除く)		816,995	566,712
ソフトバンク・ビジョン・ファンド等SBIAの運営するファンドからの営業利益	8	1,256,641	△1,931,345
営業利益		2,073,636	△1,364,633
財務費用	42	△341,937	△300,948
持分法による投資損益	43	320,101	638,717

まとめ

資産は将来、現金になるか費用になるかの2択である。このシンプルな会計リテラシー一つで、ソフトバンクグループ(株)、武田薬品工業(株)、日産自動車(株)に長期に会社内に横たわる問題点をあぶりだせます。投資時に資金繰り・負債より、資産に注目した意思決定の方が、経営は上手くいきます。

編集後記 財務諸表分析において業種特性が言われますが、会計リテラシーを先んじて検討の方が正解にたどり着きます。(^^♪文責 JY)

〒541-0052 大阪市中央区安土町1-6-19 プロパレス安土町ビル7階D号 株式会社 SPLENDID21
tel 06-6264-4626 info@sp-21.com <https://sp-21.com>